

夜の道路上で採集された直翅類

山 崎 博 道

筆者はチドリ類、特にイカルチドリの人工孵化によってできた雛を育てあげ、飼育を継続しているが、雛・成鳥ともに人工的な餌の外にある程度の量の昆虫類を給与していく必要がある。ところが毎日のことゆえ、この虫を集めるのに苦心するところである。特に餌としては直翅類が最適であり、これを細かく切って与える。

そこで普段眠についた直翅類はその場で採集するくせがついてきた。特に夜間車で走っていると道路上にでてきているキリギリスなどをしばしば発見し、発見の都度車を止めて採集してきた。1シーズン中ではあるがデータを整理してみると、♀が圧倒的に多いことが分り、また数種類の活動状況など知ることができた。ここに結果を報告する次第であるが、種の同定を願った竹田俊道氏、発表の場を与えていただいた登日邦明氏にお礼を申し上げる。

採 集 方 法

獣医師という職業柄であるが、午前中と夕方から夜へかけて1日80 Kmの道路を走り、大体夜は10時頃までであった。直翅類は日中は殆んど出ないが、暗くなると出てきだし、従って暗くなってから2、3時間が採集時間となる。

自動車のライトまたは懐中電燈で照らしてすべて手づかみで捕えられた。但し、ウマオイなど小さいものは数も少ないが、採集もしなかったことを断っておく。

なお車はキャブオーバータイプのもので、普通の乗用車タイプのものより視界が高いので虫の発見がよりし易いことを明記しておく。

採 集 目 録

7月24日、キリギリスやヤブキリを初めて15頭ぐらい捕えたのが始まりであり、シーズン終りの11月2日～9日の8日間新潟行で留守をしていたが、帰ってきてからは1頭も採れていないので、結局採集できる期間は7月下旬から10月一杯までの100日間とみられる。

この間にあって、寒い日は虫の出が悪く、暖かい日はよく出ている傾向があった。雨天の日は殆んどみられない。シーズンの終りになると夜間殆んどみられなくなるが、かえって昼間の暖かい日に少しみられることがあった。(表 1.)

表1. 夜間、道路上で採集された直翅類(頭数)

種	月・旬	7			8			9			10			
		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
キリギリス	♀	28	41	54	29	2	2		2	5	2	165		
	♂	14	3	7	1				2	4	2	33		
ヤブキリ	♀	5	7	10	7	2						31		
	♂	5	1									6		
カマキリ	♀			2	3	2	2	7	1			17		
	♂						2	4				6		
ショウリョウバッタ	♀			11	27	8	5	2	1			54		
クダマキモドキ	♀			1	1	3	3	2	4	2	2	18		
カヤキリ	♀				1		3	3				7		
クビキリギリス	♀		1	2	5	2	1	5				16		
計		52	53	87	74	19	18	23	10	11	6			

① キリギリス

全体の56%で圧倒的に多い。♀の割合は83%である。7月下旬から8月一杯まで多い。キリギリスの食欲の旺盛さには驚かされる。車にひかれたキリギリスの肉を食べているのはざらに見られ、虫カゴの中でも友食いし、冷蔵庫の中に入れておいてもカマキリ1頭を食べてしまったこともある(8月13日)。8月20日頃から舗装道路上で産卵行動がたまに見られるようになった。

② ヤブキリ

7月下旬から9月上旬までの短期間にみられ、全体の10%で、♀の割合は84%で、性はキリギリスと似ている。

③ カマキリ

8月中旬から10月上旬までの間で、やはり♀が多く74%であった。個体数は全体の7%。但し、カマキリの♀♂の見分けは不確実であったことを注記しておく。

④ ショウリョウバッタ

8月12日に初認で10月6日が終認となったが、8月中旬から10月上旬までの間で個体数は全体の15%で多い方で、すべて♀である。一例だけ9月12日、褐色同志で交尾しているのがあったが、♂は極めて小さい。

⑤ クダマキモドキ

8月19日初認、10月29日一応終認となった。全体の5%で、♀ばかりであった。

⑥ カヤキリ

8月29日初認で9月一杯までいる。個体数は少ないが巨大なバッタ。

⑦ クビキリギス

小さいので見落しや、採集しない場合もあったが、個体数は全体の5%で、これも♀ばかりであった。

⑧ ハラビロカマキリ

8月16日, 31日, 10月28日に採集した。

⑨ ウマオイ

8月4日幼虫, 17日, 25日, 9月2日に成虫を認めた。この虫は捕える時よく飛ぶ。

⑩ トノサマバッタ

8月25日, 9月19日に認め、この虫もよく飛ぶので捕えにくかった。

⑪ ヒメギス

黒いバッタで、7月31日に認め、以後少しづついたが採集は殆んどしなかった。

その他に車にひかれて死んでいたものを列挙すると、カブトムシ, カミキリムシ, ガ, カエルなどである。

褐色型

直翅類は緑色型と褐色型, あるいはその中間型のあることはよく知られていることである。今回褐色型を認めたものは表2に示すとおりである。

クビキリギスは半々, ヤブキリとキリギリスは褐色型は1例ずつである。

ショウリョウバッタは褐色型と中間型を合わせると28%もあった。

表2. バッタ類の緑色型と褐色型の割合(頭数)

キリギリス	緑	197
	茶	1
ヤブキリ	緑	36
	茶	1
クビキリギス	緑	8
	茶	8
ショウリョウバッタ	緑	39
	半茶	10
	茶	5

考察

夜の道路上にでている直翅類は殆んどが車にひかれた虫の死体を食べている。さもないければ食物を求めて歩き回っているのである。キリギリスなどは1個の死体を2頭が向き合って食べている光景もあった。

そして♂が少なく殆んどが♀であることも特徴である。

これは♀はきたるべき産卵をひかえているがため、動物質の食物を必要とするものと思われる。その点、道路上には車にひかれた虫の死体が到るところにあり、直翅類にとっては都合のよい食物の宝庫といえよう、しかし、道路へ出ているため自らも車の犠牲になることも少なくない。